

3. 取水量の増加が 下流の流量に与える影響

今後、工業用水等の取水量が増加しても、長瀬地点流量が地下水位の低下が懸念される流量を下回る場合には、工業用水等の取水量は増加分も含め全てダムから補給するので、下流の河川流量が減少することはありません。

参考資料：取水量の増加が
下流の流量に与える影響について

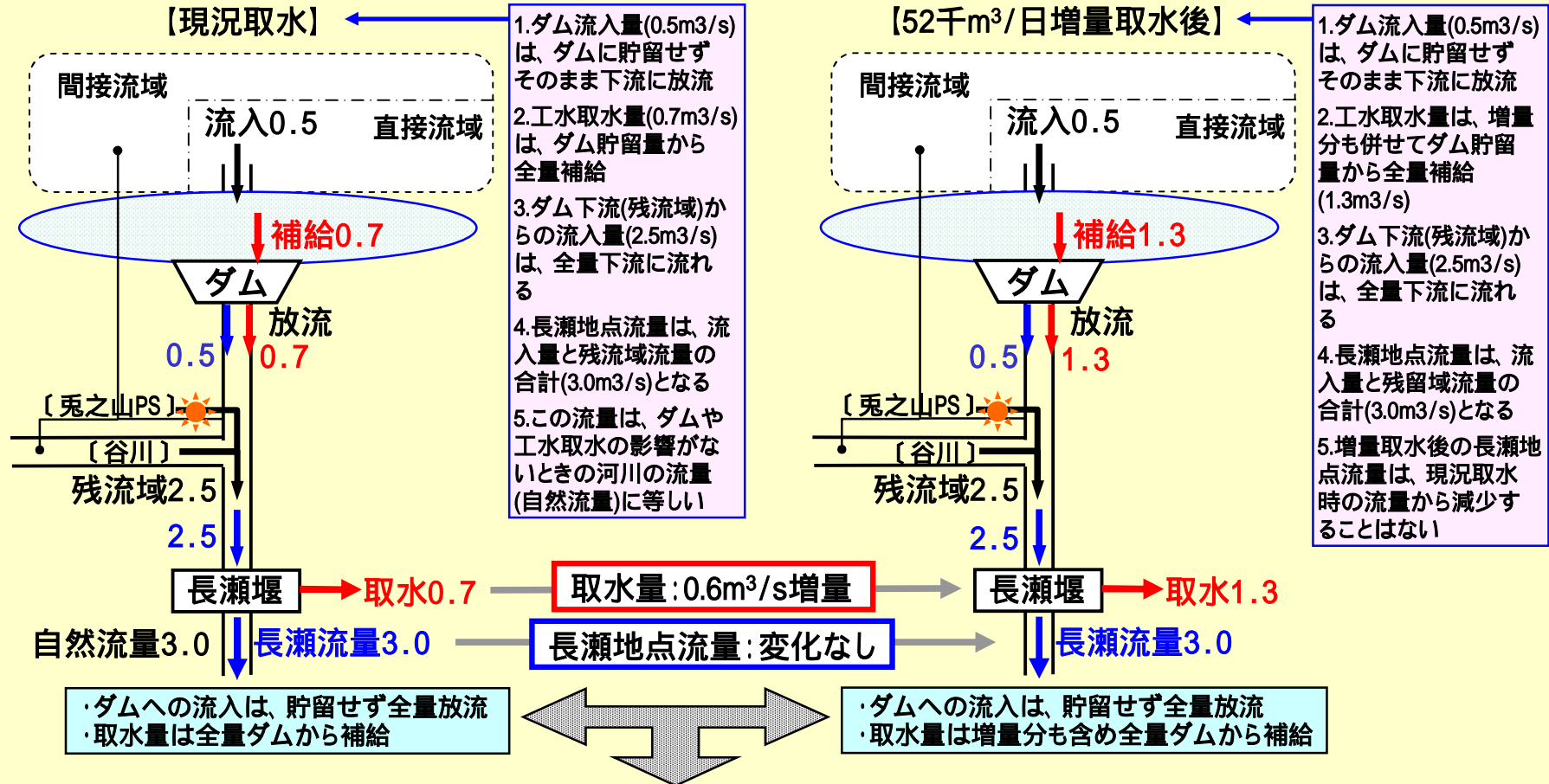
52千m³/日 (0.6m³/s) 増量取水した場合の長瀬地点流量

例1. 工水取水後の長瀬地点流量が貯留制限(かんがい期6.7m³/s)未満のとき

計算条件

- ・貯留制限6.7m³/s, 兎之山既得用水0.3m³/s

非かんがい期の貯留制限4.0m³/sについても同様の放流操作が行われる



工水取水後の長瀬地点流量が貯留制限未満の場合には、増量取水は全量ダムから補給されるので、長瀬地点流量に変化はない

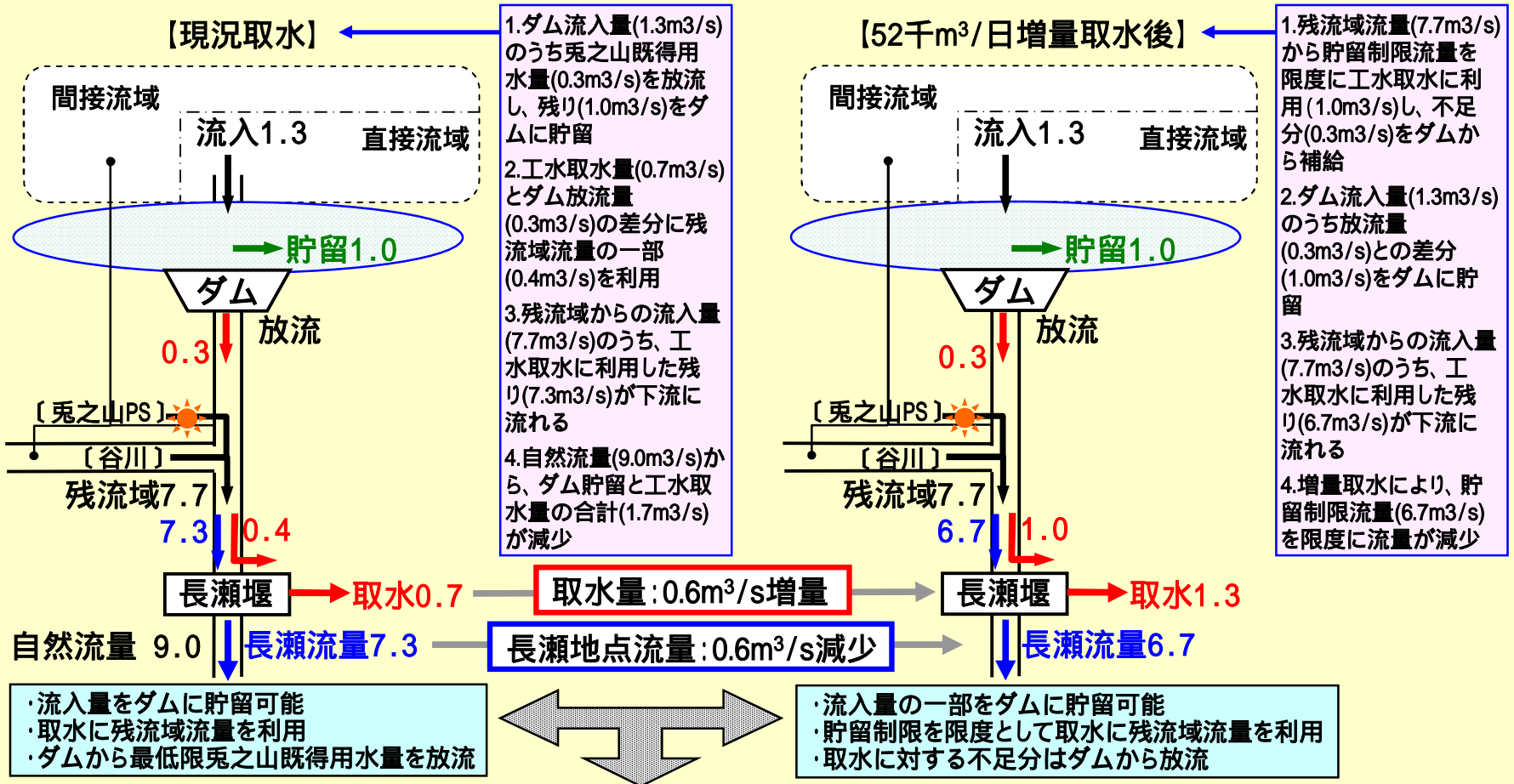
52千m³/日 (0.6m³/s) 増量取水した場合の長瀬地点流量

例2. 工水取水後の長瀬地点流量が貯留制限(かんがい期6.7m³/s)以上のとき

計算条件

- ・貯留制限6.7m³/s, 兎之山既得用水0.3m³/s

非かんがい期の貯留制限4.0m³/sについても同様の放流操作が行われる



工水取水後の長瀬地点流量が貯留制限以上であれば、増量取水に河川流量を利用するので長瀬流量は減少するが、貯留制限以上の流量は確保されている

52千m³/日増量取水した場合の長瀬地点流量【H6実測流量を用いたシミュレーション】

